

私がこの部屋の住人になってからもう一年間が過ぎ去ろうとしています。
 ホントに早いものですね！
 この前もあるお客さんの事務所に行ったら、一ヶ月毎のカレンダーが一年間分、12枚を壁にズラッと一列に貼ってあったんですよ。
 それを見たとき“エ～ッ！一年間で、たったこれだけ？”って、改めてその短さを体感？してしまいました。この感覚は少し前に（と言ったって、4～50年くらい前のことですが...充分じゃん！）夏休みとかが、あっという間に終わってしまった時以来かも知れません。モサモサしていたら、あっという間にお墓の前...な～んて事の無いように、毎日頑張って長生きしましょうねっ！
 さて、今回もウンコを出さないシマシマ牛舎の続きでしたね。
 皆さんはもうこの牛舎システムをだいぶ理解されたと思いますので、図や写真を見ながら説明させていただきますね！

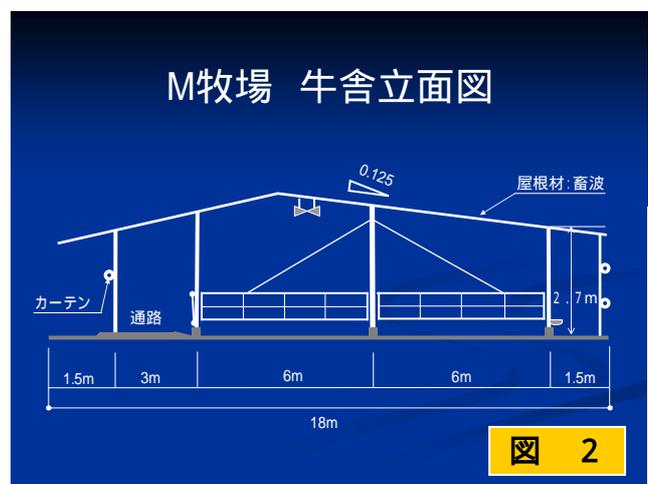
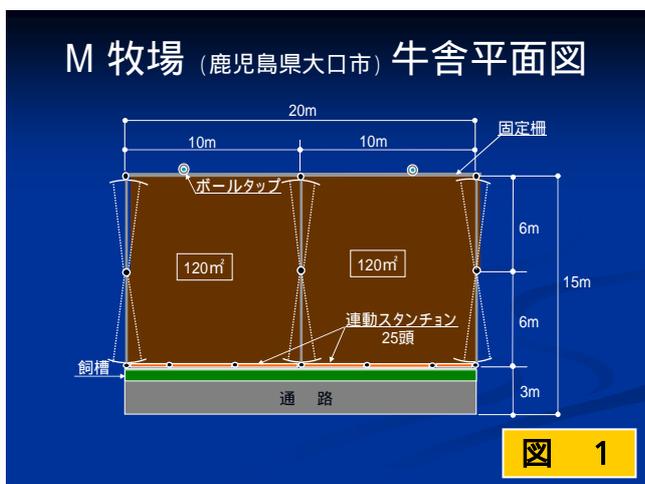


図 1、図 2 は平成 14 年に建設した M 牧場さんの牛舎平面図と立面図です。
 床面積は 1 牛房が 120 m² で 2 部屋ありますから、この牛舎の収容頭数は 24 頭ですね。
 但し、群編成が時期によっては若干の変動があるので連動スタンションは 25 頭分になっています。もっとも一時的にだったら、夏場で床の乾燥が良い状態の時は、1～2 頭くらい増やしても床は傷まないと思います。でも繋ぎ飼い方式と違って新たな牛を群に入れると、その度に必ず“序列争い”が始まります。この時、弱い牛さんは柵に押しつけられて“あたり”あるいは腰骨欠損などが出やすくなり、注意が必要です。
 前回御紹介した丸目さん曰く。このような弱牛の“あたりの事故”を防ぐためには
 イ、群の頭数を 20 頭くらいにして牛房の面積を広くする。つまり、追われた牛の逃げ場を広くする事によって、柵への衝突を避ける。
 ロ、強い牛は弱い牛に対して直線的に突進？するので、図 3 のように防護柵を設けて、弱牛の避難場所？を作っておく。更に、その近くにチョットした飼槽を設置しておくと、群のバラツキを回避できるだろう。
 との事でした。是非試してみてください。



では、ここからは各部分を写真でご紹介いたします。



写真 1 は牛舎の外観です。非常にシンプルでしょう？写真 2 は飼槽側から写したものです。図 2 でも示したように、通路幅は3 mとってあり、通路の外側には防風用に巻き上げ式カーテンを付けています。また、写真 3 は通路と反対側から見た所ですが、雨の吹き込み防止のために、屋根を伸ばして巾 1.5mの通路を設け、更に巻き上げ式の二段カーテンを付けています。この様にしておけば、台風のような暴風雨の時は別として、通常の雨の時は上段を、冬場の寒風を防ぐときには下段を閉める事で対応出来ます。また、青点線で示してありますが、ここの所に雨樋を付けておくと雨の吹き込みをより軽減できますね。だって、雨だれの水って、屋根全体で受ける雨の量ですから、とても多いんですよ！



写真 4、写真 5 は屋根の部分です。屋根材は畜産波板 2：ポリカ 1 でシマシマにしています。また、扇風機は牛さんが餌を食べている時のお尻の位置に、斜めに順送式で設置しています。牛床はお尻の所が一番傷みやすいからです。（写真 8 参照）



シマシマの太陽光線が床を乾かす！

写真 6



写真 7

太陽の動きと共に日光も床面を移動する

写真 6 は牛房でのんびりしている牛さんたちの様子です。床面に太陽の光がシマシマ状に当たっているのがよく解りますでしょうか？

この光が写真 7 の様に、太陽の動きと反対に床面を西から東にゆっくり移動して、床を万遍なく乾かしてくれます。夏場の暑い時、牛さんたちはこの光を避けて日陰に移動して座るので、自然と何百キロもある体重で床面を平らにならしてくれます。ねっ！牛さんて働き者でしょう？ですからその分皆さんは一生懸命、牛さんの世話をしてあげてくださいね！

写真 8 は飼槽側の状況です。飼槽側は牛さんたちが餌を食べている間、一箇所にどまっているため、どうしてもこの様にウンコが溜まる状態になりやすいです。ですから、床の状態を見ながら時々周辺を乾いたものと混合する、あるいは溜まったウンコの部分だけを取り除いてあげる...などの手入れが必要になってきます。

いくら“ウンコを出さなくて良い”って言ったって、まったく何もしなくて良いというものではありません。床を長持ちさせるために、状況によっては多少の手入れをしてあげないと、そのつげは必ず自分に返ってきますので油断をしないでくださいね！飲み屋さんのつけも早めに...あっ！これは関係なかったですね！ん？！一緒かな？

写真 9 は牛舎建設後、牛を導入してから16ヶ月後の様子です。床面が少しずつ高くなってきて扉の下に付くようになったので、これまでに表面を一度削っただけだそうです。柵からはみ出ている床糞は発酵していて、匂いもなくサラサラ状態。こういう所の物を、飼槽側の手入れに使うとウンコの分解も早くて良いですよ。

その理由は...？ はい、そうでしたね！



写真 8

飼槽側：時々手入れが必要



写真 9

牛導入後16ヶ月
(床表面を1回削っただけ)

この中には発酵分解を経験したプロ菌群？がワンサカ住みついているからですね。

16ヶ月でたった一回、それも表面を削っただけですよ！信じられないでしょう？牛さんたちも毛づやが良くて全然ボロは付いていないし、その動きもホントに牛らしくのったりくったり...。(えっ？こんな言い方しません？これって方言ですかね？)

そうそう、床糞を全部取らないで、この表面を削るという方法はとても良い事です。もちろん敷料を節約するっていうことでもあります、それだけではありません。

床がある程度の厚さになると発酵分解が始まります。もちろん、そのためには適度な水分(オシッコ) 温度(外気温または牛の体温) そして菌群のエサ(ウンコ)が必要ですが、この方式だとこの条件は整っていますでしょう？そうすると当然、床糞の中は発酵菌群が優勢になって、バランスの取れた菌床ができてくるわけです。

その菌床を牛床に残しておくということは...床持ちが良くなります。

この理由についてはチョット前にも説明しましたから、もう解りますよね？

但し、台風で大雨が吹き込こみ、床がヘドロ状になってしまった時は別ですよ！この様な台風が来る時は、第11回の堆肥舎の所で書いた“必殺技”で凌いでくださいね！



写真 10は同じく鹿児島県大口市の前田牧場さんの牛舎です。ここで見ておいていただきたいことは赤丸印で囲んである所で、写真 11はここを拡大したものです。牛舎の妻側の所ですが、屋根の傾斜によっては軒高が高くなりますよね。そういう時に、写真のようにチョット低い所に1.5mくらいの軒先を付けてあげると雨の吹き込みをかなり防げます。もちろん牛舎で利用する機械の邪魔にならない高さで設置します。ここでは約2.5m位の高さです。

前田さんの所では近い将来、この牛舎を写真の手前側に増設計画があり(そうですねっ！前田さん！) ボルトナット止めにして取り外しができるようにしています。

この様にチョットした工夫でその後の管理が随分楽になりますので、施設を作る時には皆さんが置かれている様々な条件を考え、それに対してどう対処するのかをしっかりとイメージしてから建設してくださいね。

以前、堆肥舎の所でもお話し致しましたが、まずじっくり考えてみましょう！

そして、お金が一番最後に必要最小限に使いましょうね！お金って使うのはいつでも出来ますから。なんだったら、私がお手伝いしてあげても良いですよ！！(笑)

ということで、一年間“うちの部屋”にお越し頂きまして有り難うございました。私の現場での経験が少しでも皆さんのお役に立つ事が出来れば幸いです。それでは、いつかまたお目に掛かれる日まで...お元気で！ お・し・ま・い